

まちのわだい

あなたの周りで起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの身近な情報をお待ちしています。

▷ 問い合わせ 広報情報係
(☎ 2 2 3 局 3 5 6 9)



災害時の断水対策に利用して

9月1日 中央公園内に防災井戸

今年、創立 50 周年を迎えるひびき青年会議所と遠賀ロータリークラブは、町の防災・減災の一助になればと、中央公園内に防災井戸「みんなのふれあい井戸」を設置し、芦屋町に進呈しました。

防災井戸には手押しポンプが付いているため、停電時も水をくみ上げることができます。また、井戸水は洗濯、風呂、トイレ用水など、飲み水以外に使用できます。ひびき青年会議所の柳昌男理事長は、「防災井戸が必要になる事態が起きないのが一番だが、緊急時は役立てて欲しい」と話していました。

釣り場の開放にむけて

8月23日 芦屋港(漁協エリア)の清掃活動

芦屋港(漁協エリア)の環境保全に関する取り組みとして、芦屋港等海釣り施設運営協議会による清掃活動が行われました。今後も協議会では「釣り文化振興モデル港」に指定された芦屋港での釣り場開放にむけて、遠賀漁業協同組合芦屋支所と釣り場の利用者が良好な関係で共存できるよう、ルールやマナーを定める活動を行っていきます。



感染症対策に役立ててください

9月1日・3日 足踏み式消毒スタンド・マスクの寄贈

新型コロナウイルスの感染拡大防止に役立ててほしいと、町内在住の人から、自作の足踏み式消毒スタンドが役場や小学校など町内9箇所に12個寄贈されました。足踏み式であれば、直接消毒液の容器に手で触れる必要がないため、より安心して利用できます。また、小学生の低学年の身長に合わせたものもあり、使いやすさも考慮した優れたもの。寄贈者は、「町の人たちが安心安全な生活を過ごせるように、経験を活かしてスタンドを作りました」と話していました。また、高橋由香さん(飯塚市)からもマスク150枚が寄贈されました。皆さんからの温かい贈り物に感謝します。



いつまでもお元気で

祝 100 歳おめでとう

満 100 歳を迎えた島岡スミコさんに、波多野町長からお祝い状などが贈られました。島岡さんは島根県江津市に生まれ、昭和 23 年に芦屋に移り住み、米軍が居たころの芦屋基地でハウスキーパーをしていたそうです。100 歳の誕生日には、子どもや孫たちがかけつけてくれました。島岡さんはいりことゴマを混ぜた自作のふりかけが好物で、毎日のように食べていたそうで、「好きなふりかけをご飯と一緒においしく食べられたことが健康の秘けつです」と話していました。

ドライブインシアターで夏休みの思い出を

8 月 23 日 第二緑ヶ丘団地自治会

コロナ禍の中でも、大勢の人と一緒に楽んでもらおうと、第二緑ヶ丘団地自治会の皆さんがドライブインシアターを開催しました。ドライブインシアターは車に乗ったまま映画を見ることができるというもので、同乗者以外の人と接触することなくたくさんの人と映画が楽しめます。参加した人は、「多くのイベントが中止になる中で、イベントを企画してくれてうれしいです。ドライブインシアターで映画を見るのは初めてで、自分も息子も良い経験ができました」と話していました。



湧き上がる創作意欲で出版までこなす 80 歳の画家

8 月 画文集「バルカン幻影」出版

芦屋スケッチさんぽ同好会などで講師を務める田代桂子さん（白浜町）が、自身 6 冊目となる画文集「バルカン幻影」を出版しました。

これは昨年 7 月から 2 カ月間、東南欧州地域のボスニア・ヘルツェゴビナやモンテネグロなどに滞在し、ロシアやスペインなどにも足を伸ばしたひとり旅で描きためたスケッチと紀行文をまとめたものです。田代さんは、長く紛争が続いた地域が平和な時間を取り戻したと知り、大使館に手紙を書いて交通事情などを情報収集。たくさんの画材を背負って現地に向かったとのこと。「外国語はほとんど話せないがメモや身ぶりで気持ちが通じる。目的のスタリ・モスト（ユネスコ世界遺産：表紙の絵）も描くことができた」と話していました。この本は芦屋町図書館で見ることができます。

